

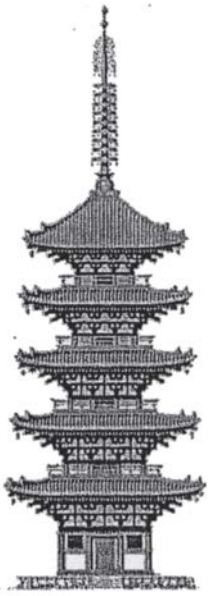
弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



★ 仏身常住と悉有仏性

皆さん、こんにちは。仏教伝来がテーマの今年のかわら版。今月は仏教全盛期の隋唐時代です。

先月号では魏晉南北朝時代(二〇年〜五八九年)に仏教が中国に根づいたことをお伝えしました。北朝(華北)の北涼(ほくりょう)時代(華北)から涅槃経(ねはんぎょう)が伝わり、仏様は永遠に存在して衆生を導くという**仏身常住(ぶっしんじょうじゅう)**、あらゆるものに仏になる可能性が宿るといふ**悉有仏性(しつうぶっしょう)**の考え方が伝わりました。続く**北魏(ほくぎ)**時代、道教の影響を受けた**太武帝**が仏教を弾圧。僧を殺し、経典を焼き、仏像や寺を破壊し尽くしました。太武帝が亡くなると今度は仏教復興運動が起こります。仏教者は破壊されない仏像を求めて**雲崗石窟(うんこうせきつ)**をつくりました。

★ 隋の文帝(楊堅)

北魏はやがて東の北齊と西の北周に分裂。北周の武帝は再び仏教を弾圧。

武帝の息子**宣帝(せんてい)**は**楊堅(ようけん)**の娘を妃とします。宣帝の息子**静帝(せいだい)**は仏教復興を宣言。仏教再生はここから本格化します。

静帝が亡くなると、母親の父、つまり祖父である楊堅が文帝として即位。文帝は南朝(江南)の陳を併合して中国を統一。五八九年、隋を建国しました。

隋は六一八年までの短命国でしたが、文帝と五人の子供たちは熱心な仏教徒となって仏教を保護。隋の時代、二十三人が僧になり、三千七百九十二寺が建立されました。

★ 天台大師智顛と法華経

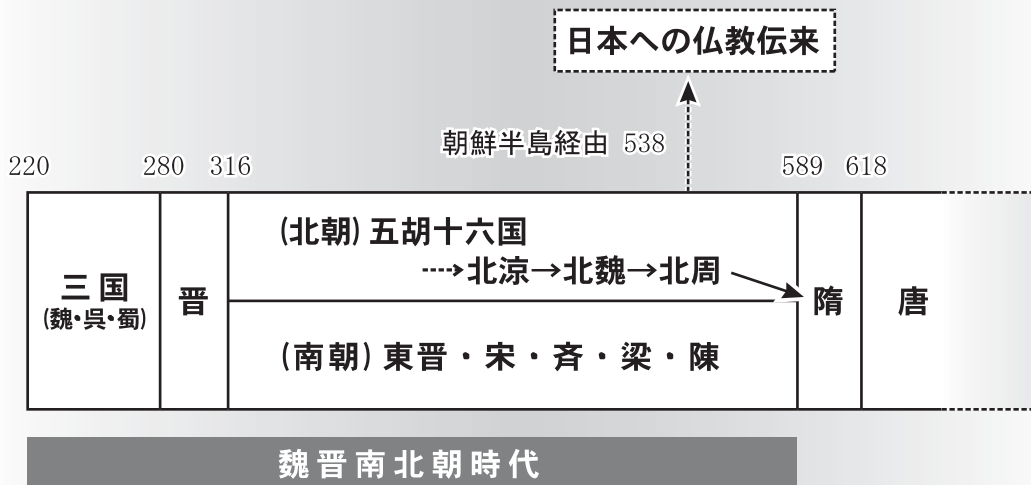
南北朝末期から隋の時代に活躍したのが**天台大師智顛(ちぎ)**。智顛はお釈迦様が教化活動をした五十年間を五つの時期に分け、その間に説いた八つの経のうち**法華経**が最も優れているとする**五時八経説**を唱えました。

その教えは、のちに日本から中国に渡った**伝教大師最澄**に影響を

与え、最澄は日本で**天台宗**を興します。

同じ頃、仏様の住む**浄土(仏国土)**に生まれ変わることを願う**浄土信仰**も広がりました。

中でも、**阿彌陀仏**の住む**極楽浄土**信仰が庶民に浸透。凡夫は自力で救われることは無理なので、**阿彌陀仏**の力に他力にすがるといって**南無阿彌陀仏**を唱える**口称念仏(くしやうねんぶつ)**が庶民の心をつかみました。



★ 玄奘と義浄

六一八年、隋が滅びて唐が誕生。中国仏教は全盛期を迎え、朝鮮半島や日本にも影響を与えます。

この時代の最も有名な高僧が**玄奘(げんじょう)**。西遊記の**三蔵法師**のモデルです。

六二九年、玄奘はインドを目指して出国。サンスクリット語の**経典六百五十七部**を携え、六四五年に長安に帰りました。

唐の二代皇帝**太宗**は玄奘に旅行記を書くことを命じ、**大唐西域記(だいたうさいいきき)**がまとめられました。

太宗を継いだ**高宗**の妃、**則天武后(そくてんぶこう)**の庇護の下、玄奘は**大般若経六百卷**の翻訳などの偉業をなして生涯を閉じます。

玄奘が陸路インドを目指したのに対し、同じ頃、海路インドに向かったのが**義浄(ぎじょう)**。義浄も多くの経典を持ち帰り、則天武后の庇護の下、**南海寄帰内法伝(なんかいききないほうでん)**という旅行記をまとめました。

★ 密教の台頭と弘法大師空海

玄奘や義浄は中国からインドに向かいましたが、逆にインドから中国にやってきて**密教**を伝えたのが**不空(ふくう)**や**善無畏(ぜんむい)**。そして、密教は日本から来た**弘法大師空海**に引き継がれます。来月は密教のお話です。乞うご期待。

